

## 1. 研究室概要

|         |                                   |        |  |      |            |
|---------|-----------------------------------|--------|--|------|------------|
| 大学名     | 芝浦工業大学                            |        |  | 研究者  | 斎藤 敦史      |
|         |                                   |        |  | 職位   | 准教授        |
| 研究領域    | 化学センサの開発・応用、センサ信号処理               |        |  | 窓口担当 | 産学官民連携推進本部 |
| 研究キーワード | ガスセンサ、においセンサ、弾性波素子、有機薄膜、センサフュージョン |        |  |      |            |
| 窓口住所    | 〒135-8548 東京都江東区豊洲 3-7-5          |        |  |      |            |
| 窓口電話    | 03-5859-7180                      | E-mail | sangakukan@ow.shibaura-it.ac.jp              |      |            |
| 窓口FAX   | 03-5859-7181                      | URL    | http://www.ce.shibaura-it.ac.jp/kyoin/#saito |      |            |

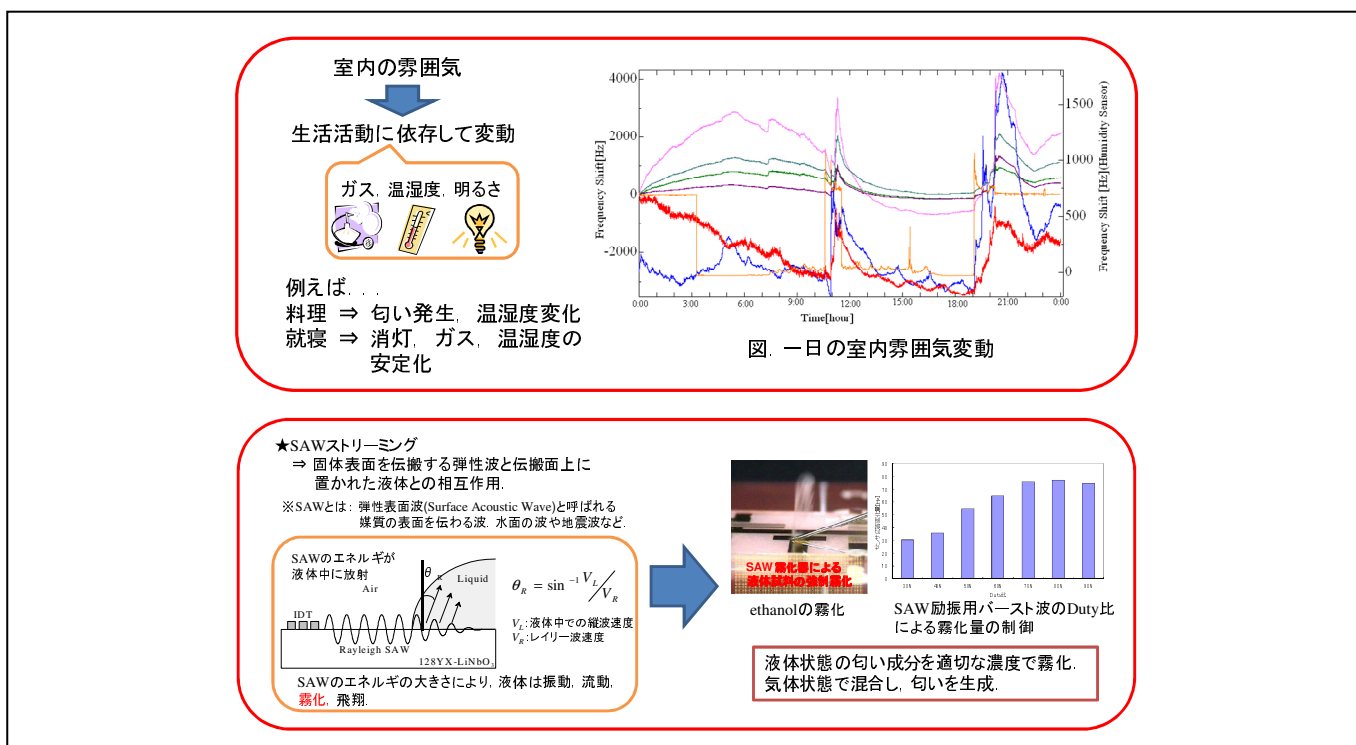
## 2. 技術PR事項

### 『物理・化学センサシステムで生活を見守り、匂い発生装置で生活に潤いを！』

#### 1. 研究の概要

料理、食事、入浴、換気、そして就寝、外出等、人が室内で生活活動を行うとその内容に依存した室内の雰囲気変化(ガス濃度、温湿度、明るさ等)が生じます。この変化をガス(匂い)センサをはじめとした異種複数のセンサにより取得し、情報処理することで生活者の生活リズムや活動を識別する手法について検討しています。この手法が実現できれば、視聴覚情報を用いずに高齢者の生活を見守ることが可能となります。

さらに、センサにより“匂い”が数値化できるようになると、“匂い”の合成や通信が可能になります。匂いを提示する装置を“嗅覚ディスプレイ”と呼び、その実現により生活に潤いと安らぎを与えることも可能になります。



#### 2. 希望する連携内容(共同研究、試作品作りなど)と相談に対応できる技術分野

◆センサデバイス、センシングシステムの共同開発及びセンサ応用技術に関する共同研究を求めています。

#### 3. 特記事項

●代表論文：“室内環境変動測定に基く生活活動認識と認識精度向上のための局所情報取得方法”

電気学会論文誌 E Vol.131No..6pp223-229

●詳細は <http://resea.shibaura-it.ac.jp>